

富田中学校だより 1月号



富田の風

Tonda Junior High School

◇富田中学校の教育目標◇

豊かな心、すぐれた知性、
たくましい体を備え、
粘り強さと実践力のある
生徒の育成

令和4(2022)年12月23日

がんばらなければならない時に・・・

がんばることのできる人であってほしいと思います。ずっとがんばり続ける必要は無いと思いますが、やらなければならない時やがんばらなければならない時は必ずあります。そのために、毎日の積み重ねがあると言っても過言ではないと思います。長い人生においても、24時間の中でも、そのようなタイミングは随所にあると思います。けじめやメリハリを付けられることはとても重要です。

3年生にとっては、いよいよ勝負の時です。1、2年生にとっても、本当にあつという間に、その日はやってきます。限りある時間そして13日間の冬休みを有意義に使ってください。

修学旅行を終えて・・・

12月7日から9日にかけて、2年生の修学旅行がありました。今回もこれまでの学校行事と同様に、その前後でコロナ感染症に見舞われることはありませんでした。最悪の場合は、ホテルや見学地に保護者が生徒を迎えに来ていただかなくてはならないことも想定しながらの旅行でしたが、そのような心配もなく胸をなで下ろしました。

旅行中は、見学地やホテルのあちらこちらで、聴く態度の良さをお褒めいただきました。特に、長崎の宿泊したホテルと北九州のプラネタリウムでは、来館者で過去最高と褒めていただきました。

生徒指導だよりを・・・

昨日配付しております。携帯電話・スマホ等の使用状況についてのアンケート結果をまとめた1枚となっております。今一度、お子様の使用状況を把握していただき、ルールやマナー、使用時間についてご確認ください。犯罪等に巻き込まれることのないよう、ご家庭でのルールづくりをよろしく願います。

あわせて、学校では先日の全校集会において、今月の人権週間にちなんで「人が嫌がることや困ることをしない、言わない、させない、見逃さない」ことを全校生徒で確認しあったところです。

いいとこみつけ(登校中の風景から)

12月初旬の朝のことです。信号のない横断歩道に、中学3年生と富田小の児童の二人が立っていました。二人に気付いた乗用車は歩道の前で止まり、中学生が先頭になって二人は横断歩道を渡り終えました。その直後、中学生は運転手に向かって軽くお辞儀をしました。後から渡り終えた小学生も、その中学生を真似るかのようにして、お辞儀するという光景に偶然出くわしました。遠くから見ていた私もとても温かい気持ちになりました。上級生が模範的な行動をとって、下級生がそれを見て真似て学ぶことは、学校生活において理想型の一つだと思います。3年生には先輩として、後輩にまだまだ後ろ姿を見せ続けてほしいと願う今日この頃です。

1月の主な行事 (令和4年12月23日現在の予定です)

6日(金) 3学期始業式	20日(金) 県立推薦入試志願状況発表
10日(火) PTAあいさつ運動(2年・12日まで)	25日(水)・26日(木)
12日(木) 実力テスト全学年(国・理・英)	県内の多くの私立高校の入試があります。
13日(金) 実力テスト全学年(社・数)	本校生徒の最速の入試日は1月5日です。
13日(金) 英語検定(希望者)	26日(木) 読み聞かせ1年

各種大会・コンクールの入賞・上位成績紹介（個人氏名敬称略）

【短歌】第12回青の國若山牧水短歌大会 中学生の部

最優秀賞 今村 菜詩（12月18日、日向市での表彰式に出席しました）

「あと一点震える右手に力入れ投げたボールは少しななめだ」

※ タイトルにある「青の國」は、若山牧水が、緑豊かなふるさと日向を詠んだ作品「樹（き）は妙（たへ）に草うるはしき青の國日向は夏の香（か）にかをるかな」にちなんで名付けられたものです。

一般の部は全国各地から、小・中学生・高校生の部は県内からの応募で、その総数は4,294首でした。

【一行詩】令和4年度一行詩「生命（いのち）のこえ」コンテスト 中学生の部

優秀賞 長友 心美

「あなたのその言葉はえんぴつのように消えない。

相手の心の傷も一生消えない。」

入選 甲斐 莉彩

「マスクがあたり前の日常。自分の笑顔はみんなに届いているのかな？

満面の笑顔でみんなと楽しく話をしたい。」

※ 一行詩とは、短い詩のことです。一息で読める長さを一行として、50字以内で表現したものです。この一行詩は「犯罪被害者週間」キャンペーン事業の一環として、公益社団法人みやざき被害者支援センター主催で行われています。

「尊い生命～未来へ続く生命のこえ～」と題した一行詩を、県内小学生・中学生・高校生・一般から広く募集し、その総数は3,971編でした。

【作文】令和4年度全国中学生人権作文コンテスト宮崎県大会

奨励賞 山下 莉果

※ 奨励賞は、最優秀1点、優秀賞2点に次ぐ賞です。山下さんの作文は、携帯電話、SNS、新型コロナウイルス感染症などの話題に触れ、自身の経験を盛り込みながら、人権尊重の大切さがよく表現された400字詰原稿用紙5枚に及ぶ力作でした。

～編集後記～

令和4年が終わろうとしています。1日1日もあっという間に過ぎますが、振り返れば、この1年も本当にあっという間でした。いろいろなことが思い出されます。様々な場面で使わせていただいた「勝つコツはコツコツ」は、保護者の皆様からも「いい言葉ですね」「そうですね」「使っています」など予想以上に反響があったことを嬉しく思っています。

新型コロナウイルス感染症の最新情報をもとに、過度に恐れることなく、マスクの適切な着脱と室内の換気、手指消毒を行うことで、学校がコロナの起点になることは絶対に起こさない覚悟の1年でした。年度当初はなかなか参集型の行事の実施には限界がありましたが、5月以降は、可能な限りの挑戦をさせていただきました。ご理解とご協力ありがとうございました。これからもそして今後とも、最悪の事態を想定して準備して、当日は臨機応変にというスタンスで学校運営させていただきたく存じます。

皆様におかれましては、令和5年が何より健康第一で、実り多き素敵な1年となりますことをご祈念申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。